「夢十夜」第六夜　授業ノート2014

●書いていないものを読み取る

○「運慶が今日まで生きている理由」を説明できる。
○運慶と主人公（自分）は何の象徴かを理解する。

課題、「明治の人間」と「運慶」の特徴的な言動を挙げ、それぞれに「どういう人」として描かれているかを探る。

明治の人間　（明治）

1 という**評判**だから、散歩ながら行ってみると、自分より先に**もう大勢集まって**、しきりに**下馬評**をやっていた。

珍しいものが好き
評価を下すのが好き

2 みんな**自分**と同じく、**明治の人間**である。そのうちでも車夫がいちばん多い。

「今でも仁王を彫るのかね。」
「仁王はみんな古いのばかりかと思ってた。」
「なんでも日本武尊よりも強いんだってぇからね。」

よほど無教育な男と見える。

勝手な思い込みで判断

3 見物人の評判

他が気になる

近代的

運慶　（鎌倉？）

1 なんとなく**古風**である。鎌倉時代とも思われる。

2 「人間をこしらえるよりもよっぽど骨が折れるだろう。」

骨が折れる仕事を厭わない

3 見物人の評判には委細頓着なく鑿と槌を動かしている。
一向振り向きもしない。

周りを気にしない

その様子がいかにも**古くさい**。わいわい言ってる見物人とはまるで**釣り合いがとれない**ようである。

運慶のほうでは**不思議とも奇態ともとんと感じ得ない様子**で**一生懸命**に彫っている。

「仁王と我とあるのみという態度」

4 決して間違うはずはない。」と言った。
評価を下したがる

5 このとき初めて**彫刻とはそんなものかと思い出した。**
はたしてそうなら誰にでもできることだと思い出した。
それで急に自分も仁王が彫ってみたくなった
勝手な思い込みで判断
すぐに真似をしたがる

5 不幸にして、仁王は見当たらなかった。
その次のにも運悪く掘り当てることができなかった。
三番目のにも仁王はいなかった。

疑念がある

ついに明治の木にはとうてい仁王は埋まっていないものだと悟った。
自分の技術のなさは棚に上げている。
「明治の木」のせいにしている。
↓明治の人には仁王は掘り当てられない。
↓「木」とは「精神」

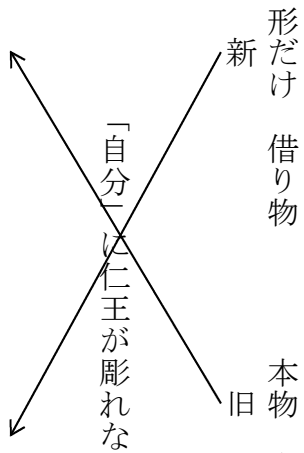
---

4 その刀の入れ方がいかにも**無遠慮**であった。そうして**少しも疑念をさしはさんでおらん**ように見えた。

「 **無造作**に鑿を使って
まるで土の中から石を掘り出すようなものだから決して間違うはずはない。 」

自分を信じている

仁王が彫れることを信じている。

5 運慶が今日まで生きている理由
※運慶がいないとどうなるか？
※運慶がいるからどうなのか？

運慶が今日まで生きているから、仁王を明治の今に掘ることができる。
仁王を存在させることができる。
日本の魂を示すことができる。
外見や評判だけでない、信念や魂というものを探り出してくれる。形にしてくれる。